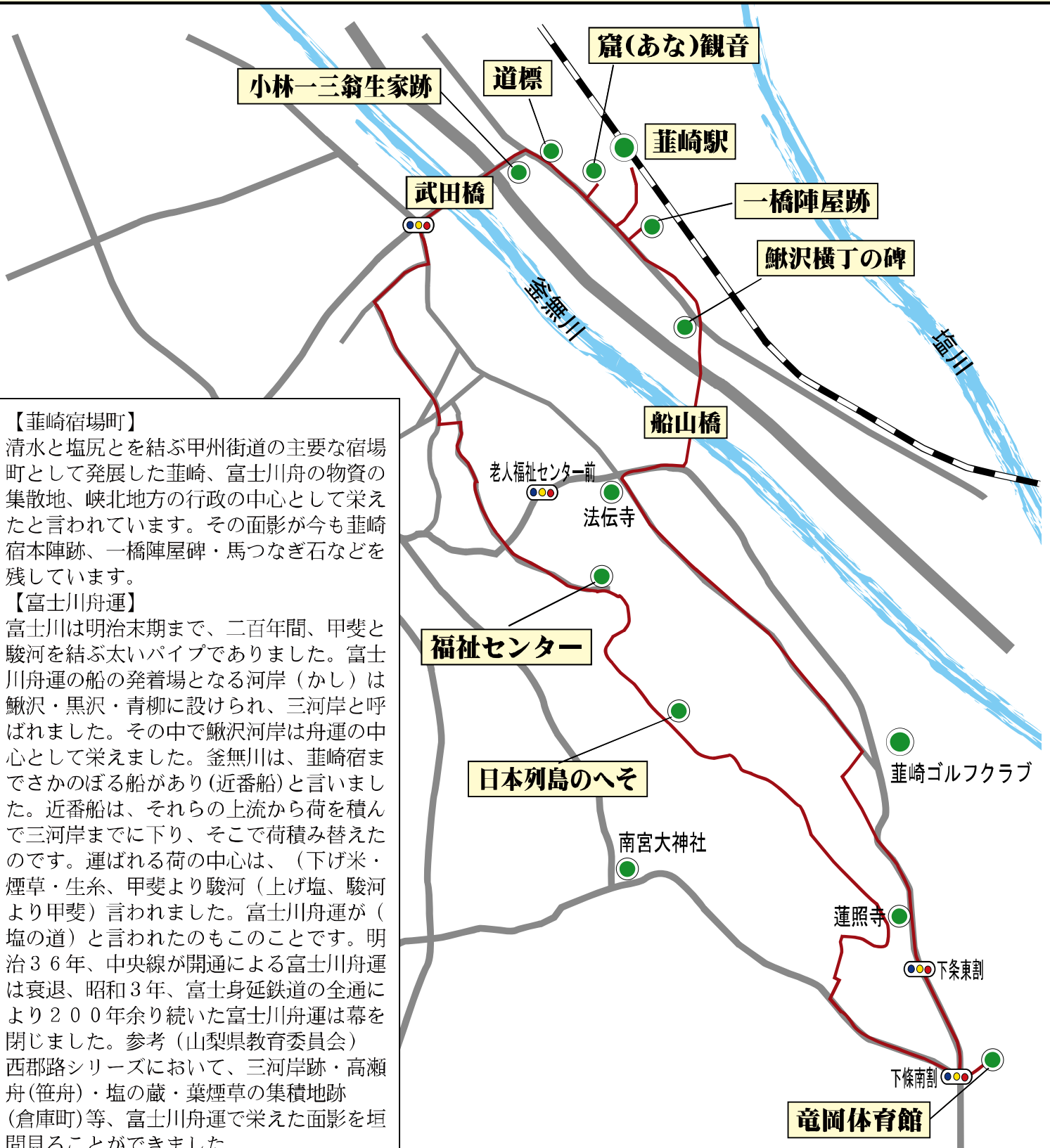


# 古道・西郡路巡りウォーク（４）

- ・開催日 2016年12月9日(金)
- ・コース 韮崎駅(トイレ)～道標(右、佐久みち・左、すわみち)～窟(あな)観音・雲岸寺～小林一三翁生家跡～武田橋～福祉センター(トイレ)～日本列島のへそ～竜岡体育館(昼食・トイレ)～船山橋～鯨沢横丁の碑・馬つなぎ石～一橋陣屋跡・韮崎宿本陣碑～韮崎駅(トイレ)
- ・距離 約13km
- ・担当 田中哲夫



## 【韮崎宿場町】

清水と塩尻とを結ぶ甲州街道の主要な宿場町として発展した韮崎、富士川舟の物資の集散地、峡北地方の行政の中心として栄えたと言われていています。その面影が今も韮崎宿本陣跡、一橋陣屋碑・馬つなぎ石などを残しています。

## 【富士川舟運】

富士川は明治末期まで、二百年間、甲斐と駿河を結ぶ太いパイプでありました。富士川舟運の船の発着場となる河岸(かし)は鯨沢・黒沢・青柳に設けられ、三河岸と呼ばれました。その中で鯨沢河岸は舟運の中心として栄えました。釜無川は、韮崎宿までさかのぼる船があり(近番船)と言いました。近番船は、それらの上流から荷を積んで三河岸までに下り、そこで荷積み替えたのです。運ばれる荷の中心は、(下げ米・煙草・生糸、甲斐より駿河(上げ塩、駿河より甲斐)言われました。富士川舟運が(塩の道)と言われたのもこのことです。明治36年、中央線が開通による富士川舟運は衰退、昭和3年、富士身延鉄道の全通により200年余り続いた富士川舟運は幕を閉じました。参考(山梨県教育委員会)西郡路シリーズにおいて、三河岸跡・高瀬舟(笹舟)・塩の蔵・葉煙草の集積地跡(倉庫町)等、富士川舟運で栄えた面影を垣間見ることができました。